

会 議 録

- 1 会議名
平成23年度 第3回 第4次上越市行政改革大綱等策定委員会
- 2 議題（公開・非公開の別）
第4次上越市行政改革推進計画（案）について（公開）
- 3 開催日時
平成23年10月19日（水）午前9時30分から12時まで
- 4 開催場所
上越市役所4階 401会議室
- 5 傍聴人の数
2人
- 6 非公開の理由
なし
- 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）
 - ・委員：東條邦俊、木澤勝、青木ユキ子、木原満男、小出優子、
三浦元二
 - ・事務局：市村総務管理部長、永野行政管理課長、市川副課長、星野係長、
太田主事
高橋財政課長、大瀧副課長
- 8 発言の内容
 - 【永野行政管理課長及び市川副課長】
 - ・資料1～5に基づき説明。
 - 【東條委員長】
 - ・数値が入っていない部分については、どのような形で委員に示されるのか。
 - 【永野行政管理課長】
 - ・数値については27日の所管事務調査で説明する。同時期に委員にも確認していただけるようにしたい。
 - 【東條委員長】
 - ・それに対する意見はどのように反映させるのか。
 - 【永野行政管理課長】
 - ・数値は関係部局の協議で決定するものと考えているため、事務局にお任せい
ただきたい。

【高橋財政課長】

- ・今回数値を入れなかった理由は、本日の意見を踏まえて個別計画を修正した場合、財政面に影響が生ずる可能性があり、各年度の収支不足額が変動する要素があったためである。
- ・本日の会議を踏まえ、21日に数値を確定する予定である。

【小出委員】

- ・当日配付資料の3ページの「適正な職員定員管理」に関する意見で「人件費総額を抑制する」と書いてあるが、市の考え方では「人件費総枠を抑制する」となっている。何か意味があるのか。

【永野行政管理課長】

- ・「総枠」と「総額」を混同したように書いてあるが、基本的には金額を示すこととしているため、「総枠」も「総額」も同じ意味で使っている。

【三浦委員】

- ・以前にも推進計画と個別計画の関係性について聞いたが、今回、全部で34ある個別計画のうち、半数が推進計画のシートのみとなっている。これでは説明不足ではないか。シートだけで表したとしても、もう少し内容を整理しておくべきであり、個別計画としての熟度が足りないと思う。
- ・結果として、推進計画を策定するための個別計画であると考えざるを得ないような形になっている。
- ・推進計画と個別計画の関連について、市の考え方を聞きたい。

【永野行政管理課長】

- ・個別計画は厚いものもあればシート一枚もある。取組内容によっては、そのようなものもあるということは、前回もお話したとおりである。
- ・現在、個別計画を策定中のものもあり、また、実行の段階で内容を補完していくものもあるため、全て厚いものを作ることは困難である。実施の段階で事業の状況を十分踏まえながら進めていくということで理解いただきたい。

【東條委員長】

- ・個別計画を策定した背景などについて、もう少し表現できるものがあるのではないかと指摘だと思うが、少し整理した方がよいのではないかと思うので対応してほしい。

【三浦委員】

- ・否定的な意味で言っているのではない。前回も質問しており、自分でも期待していた。推進計画に充てるためのシートとして個別計画を作るのでは、本当の意味での個別計画にはならない。もう少し、推進計画と個別計画の全容や内容を整理した上で出してほしかった。
- ・今後、事業の進捗に合わせて具体的に進めていくということであったので、そのような方向で進めていただきたい。

【木原委員】

- ・目標の数値化の問題であるが、推進計画により市内全体が背中を押されるという場面がないと意味がない。極端なことを言えば、状態目標では仕事をやっていたら達成できてしまう。
- ・平成27年度以降に対して、財政状況が改善されなかったために市民サービ

スを下げてなくてはならないという危険性を回避するために、前もって取り組むのが行革だと思うが、そのような趣旨からすると、より背中を押されるような目標、つまり数値目標でないといふ力強く計画を推進できない。

- ・個別計画の平成 27 年度以降については推進計画には載せず、財政計画の中に入れるとのことだが、平成 27 年度以降についても推進計画に反映させるという記載がないと平成 26 年度で終わったままになり、継続性が出てこない。
- ・縛りを入れるのが行革大綱であり推進計画である。推進力が欠けているように思うので、再考いただきたい。

【東條委員長】

- ・数値目標については、出せるものと出せないものを説明してほしい。
- ・縛りについては前々から話があったことだが、それも説明してほしい。

【永野行政管理課長】

- ・基本的には、数値化できるものは数値化するというスタンスは持っている。しかし、数値で表すことが難しい項目もある。第 3 次大綱の数値目標の中にはどうなのかというものもあった。数値に縛られるのではなく、状態を維持・発展させていくことも必要ではないかと考えている。
- ・継続性、縛りについてだが、今回、策定する財政計画は平成 32 年度までの推計値であり、これによって歳入歳出の見通しが明らかになる。そのうち、平成 26 年度までの推進計画に合致する部分は、推進計画に取り込んでいる。収入と支出の状況を項目別に見ていただきたい。
- ・従って、平成 27 年度以降も、しっかり行革を継続していかなければならないということも、数字の中から明らかになってくると思っている。財政計画は第 3 次大綱にはなかったもので、一定期間の財政シミュレーションを出すという新たな試みである。そういう部分では、ひとつの大きな縛りではないかと考えている。

【木原委員】

- ・土地開発公社の経営健全化は、なぜ数値が入れられないのか。単なる健全化が目標であるとは考えられない。何をもちて健全化というのか。

【永野行政管理課長】

- ・本日お配りした資料にもあるが、公社の保有土地は大きな問題となっており、保有土地の削減も含め、現在、債務を整理するための抜本的な見直しを行っている状況である。方向性が定まった段階で数値を含めた整理の手法を明らかにしていきたい。
- ・本日の資料公表と検討状況のタイミングが少しずれていたため、数値を入れたいが入れられなかったということである。

【木原委員】

- ・そうだとすれば、今ある平成 24 年度までの計画では不十分なために、この中に入れられないということか。今の計画では健全化につながらないから、見直しており数値もつかめないということか。

【市村総務管理部長】

- ・平成 24 年度までの計画とは、市の買い戻しが 10 億円、民間への売却が 15

億円という計画のことだと思うが、買い戻しは市の予算で何とかしている状況であり、民間売却についても難しい状況であるため、抜本的な計画の見直しが必要と考えているところである。

- ・見直しに当たっては、三セクを整理するというような記載もしているところであるが、現在、最終的な詰め段階である。今後、そのような部分もお示していきたいと考えているが、調整中のためこのような表現とした。

【木原委員】

- ・総じて遅いのではないか。償還の繰り上げや借り換えにしても自分の家のことならすぐに対応しているはずである。だからこそ、計画の中に縛りを入れるべきではないか。

【市村総務管理部長】

- ・遅いという話については、省庁の許可が必要であり、決して忙しいから遅れているということではない。最優先で取り組んでおり、遅いという認識はない。制度的な制約や関係省庁との調整があることを理解いただきたい。
- ・縛りがなければ推進力にならないのではないかという指摘については、これらの取組を進めることで最終的にはこのような形になるという意味で、第3次行革大綱推進計画にはなかったが、今回、推進計画に財政計画を掲載している。そういった意味では推進力と言えると考える。
- ・数値目標がないという意見については、汗をかいて努力していく計画にしたいと考えている。第3次大綱には、汗をかかなくても達成できるような目標があったため、今回は実行力のあるものとして汗をかいていこうという目標とした。関係課と相当な協議を積み上げてきたものであるため、理解いただきたい。

【高橋財政課長】

- ・繰り上げ返済については、高利の利率は早く返済したいと考えているが、民間の金融機関とは違い、政府系の資金の場合は制約があり違約金が発生する。
- ・違約金が発生しない制度があるが、高い利率のものから順番に繰り上げ返済してよいというものであり、返済時期が国で定められているため、その時期に返済するという計画である。

【小出委員】

- ・縛りを入れるという話を聞いて息苦しかった。なぜこれに取り組むのかということ職員にも市民にも分かるような計画でないといけない。
- ・ぎちぎちなもので背中を押されても、冷や汗をかきながら嫌々やるようになりがちである。もう少し伸びしろがあり、職員が意味を理解して熱い汗をかきながら市民と協働してやっていこうというのがよいのではないか。

【市村総務管理部長】

- ・毎年度の予算・決算において、事業ごとに目標を定めて取り組んでいるが、議会でも、あまりにも目標を数値化することにこだわりすぎて、本来の事業目的をはき違えているのではないかと指摘されている。数字にこだわりすぎて、少し違った作用が出てきていることも感じているため、予算編成の中でもそうした観点を見直していこうとしている。
- ・職員が行革の目的を受け止めながら進めていくことが大事だと思っている。

【青木委員】

- ・私は、数値の出ない部分の文言にこだわったが、人材育成方針は民間では当たり前前のことが書いてあり、職員がこれを見て真剣に取り組むのか疑問である。もう一步進んで能力の向上や事務の簡素化など、普段の仕事をもう少し考えながらやらないと達成できないという部分で文言を入れたかった。
- ・普通に読むと職員の服務規程にしか思えない。職員の意識の向上を図れるような年度別の取組にしていけないと気持ちは変わらない。少し甘いのではないかな。

【市村総務管理部長】

- ・文言の部分は、私どもが考えていた言葉が本当に市民に分かりやすいのか、また、取り組むに当たり適切な表現になっているのかを指摘をいただいたという意味で、もう一度見直したいと考えている。
- ・本気になって取り組むためにこの文言でよいのかももう一度検討したい。

【青木委員】

- ・今回、「市民社会へのアプローチによる『新しい公共』の創造」という部分が出てきているがNPO活動に関わっている者の視点から見ると、これをもって個別計画とするのは大変不十分だと思う。

【市村総務管理部長】

- ・新しく掲げた「新しい公共」については、上越市の取組はどうあるべきかを市長と相当議論した結果、このような取組を進めていこうと考えているものである。これから深めていかなければいけないテーマだと思っている。
- ・そうした意味でNPOや団体の皆さんとより進化させながら深めていく中で、具体的な計画もできてくると考えている。取組が始まっている最中だということに理解いただきたい。

【三浦委員】

- ・数値化の議論は、分かりやすさと逆に数値に縛られる部分もあり難しい。文章で表現されているものを見ても、文面から思いがにじみ出ていない部分がある。これが市民に公表されるということであれば、もう少し検討してほしい。
- ・たとえば、7ページの各種整備計画でいうと、この取組内容ではどうするのかが見えてこない。整備基準がどうなのか、それに基づく整備計画がどうなのか、地域事業はどのように判断するのか、優先度はどのように判断するのかといったことが、言葉としては分かるが、状態としてどのようになるのかが見えてこない。

【永野行政管理課長】

- ・表現の工夫はしていかなければいけないと思っている。行政用語が並んでいるので解りづらいところもあるため、他の取組内容についても再度確認する。
- ・整備計画については、地域事業費制度の見直しに伴い、今後は全市的な視点での優先度を設定し、一定の基準で進めていくこととした。道路、学校、保育園などの主な10分野について、整備計画を策定することとした。優先順位を付け、予算の範囲で実施していくが、地域事業は平成26年度までに実施することとしている。計画的に事業を進めるための計画である。

【三浦委員】

- ・今のような説明が書いてあれば分かりやすい。
- ・また、6 ページに事業の終期の明確化とあるが、全ての事業に終期を設定することは可能なのか。また、そもそも、その必要性があるのか。全体を網羅するような考え方が成立するのか疑問に感じる。
- ・35 ページのその他の収入の確保についても、特定目的基金等の取り崩しの年次計画を策定するとなっているが、基金を設定した目的と整合性がとれているのか。基金の取崩しと基金の廃止の関連性を教えてほしい。

【永野行政管理課長】

- ・終期の設定については、設定できないものもあるが全ての事業について設定できるかどうか検討し、できるものはきちんとしていきたい。全部をゼロベースでみるということである。

【高橋財政課長】

- ・基金の廃止が前提ではなく、計画的・効果的に財源にするという意味である。
- ・具体的に記載しているものは社会福祉施設整備基金であり、これまで運用した利子等を毎年度基金に積み立ててきたが、現実的に福祉施設を建設する際に財源として活用してこなかった。
- ・今回、運用益の一部を社会福祉施設整備の財源として、計画的にお金を入れていこうというルールを定めた。現時点では社会福祉施設整備基金だけを記載しているが、それ以外の特定目的基金についても、建設年度に併せて計画的に取り崩していくこととしている。

【木原委員】

- ・旧簡易生命保険資金や公営企業などの補償金額がないものについては、繰上返済が終わっているのか。現在、残っているのは、制度的に制約のあるものだけか。

【高橋財政課長】

- ・そのとおりである。

【木原委員】

- ・大綱にも平成 27 年度以降は非常に厳しいということが記載されているので、推進計画の 49 ページの財政計画の部分にも平成 27 年度以降を先取りしたような記載ができないか。

【市村総務管理部長】

- ・推進計画は平成 27 年度以降も踏まえた上で策定しており、49 ページに財政計画を掲載している。49 ページの標題については、この計画を実施していくとどのようになるかが分かるような表現に変更する予定である。
- ・推進計画の取組を進めていった場合の収支状況をここに掲載するという考え方であり、数値は推進計画の中で整合がとれていると判断しており、財政計画の中では地方交付税の減額も見据えた上示していく予定である。

【木原委員】

- ・数値を入れると理解しやすくなると思う。市民に分かるようにしてほしい。

【市村総務管理部長】

- ・推進計画に入れるかどうかは検討する。

【三浦委員】

- ・38 ページの木田庁舎と総合事務所のあり方検討について、平成 26 年度でモデル案の検証とモデル地区の拡大準備となっているが、今の段階でモデル地区を拡大するという方向性が示されているのはいかがか。拡大ありきで進めているのではないか。

【市村総務管理部長】

- ・総合事務所については、基幹的な事務所に土木技師等を集約することで機動的な体制がとれると考え、モデル的に実施したいと考えている。
- ・モデル的に実施するのは効果や課題を検証するためであるが、当然、全市展開も視野に入れてのことである。課題克服の準備期間も必要なことから「拡大の準備」とした。すぐに拡大するというわけではない。

【三浦委員】

- ・考え方は分かったが、あらゆる角度から検証を深めてもらい、進めてほしい。
- ・総合事務所のあり方については、組織機能の面だけでなく職員のあり方にも深く関連するため連携した取組になると思う。組織機構と職員のあり方を含めた中で検討を進めていただきたい。

【青木委員】

- ・普通は収入が減ると支出を減らし、職員数も最低の人数とする。職員が今以上に一生懸命に仕事をこなすという意識と行動力が必要となると思うが、39 ページの職員として大切にすべき価値観・基本姿勢の共有のところで、平成 26 年度の目標が「職員が職員行動規範の実践を意識した行動をとっている状態」となっているが、よく分からない。職員が今以上に意欲をもって働けるような内容なのか。

【市村総務管理部長】

- ・人材育成方針の策定を受けて3月に職員行動規範を策定し、4月から実施している。行動規範では10項目を定め、職員が市民サービスを行う上でのポイントを掲げている。名札の裏に職員個々に今年心がけていくことを書き、毎日実践している。
- ・地道な取組だが、市民にプラスになるようにしていこうとしている。今以上にというのは当然のことながら、常にレベルアップを図っている状態を示したものである。

【東條委員長】

- ・文言的に工夫できるところは市民に分かりやすくなるようにお願いしたい。取組の内容も少し付け加えるところもあると思うのでお願いしたい。
- ・行動規範のアクション10を含め、個別計画は平成26年度の段階で見直していくのか。

【市村総務管理部長】

- ・アクション10については普遍的なものとして策定し、その時々に関わらず職員としてのあり様を記載してあるため、見直しは不要と考えるが、個別計画は推進計画とセットで見直しする必要があると考えている。

【東條委員長】

- ・本日の意見を踏まえ、事務局で修正し成案としていただきたい。

- ・また、推進計画の答申はしないということで理解いただきたい。最終的なものを委員にも送付してもらいたい。

【星野係長】

- ・本日の意見を踏まえ、27日の所管事務調査、11月のパブリックコメントを経て、12月末に推進計画を確定、公表する予定である。
- ・委員の皆さまには修正したもの及び確定後の計画を送付させていただく。
- ・また、策定委員会は本日を持って最終の審議とさせていただく。委員の皆さまには昨年度、今年度の2カ年に渡り、ご理解・ご協力いただき感謝する。
- ・以上で会議を終了する。

9 問合せ先

総務管理部行政管理課行革推進係 TEL：025-526-5111（内線1436）

E-mail:gyouseikanri@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。